



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：財務省と国防省が軍の空港閉鎖で合意

2014年6月16日、イスラエル財務省と国防省は、国防予算の議論で一部合意に達した。5月に入り、イスラエル軍は予算不足を理由に予備役兵士の訓練を中止すると発表していた。また国防相と財務相間の議論が激化し、5月27日には、ネタニヤフ首相が、両相に公の場での口論をやめるよう指示する事態になっていた。今回の合意で、国防予算削減をめぐる財務省と国防省の軋轢が解消することはないとしても、両者の対立は一時的に緩和されるかもしれない。

財務省と国防省の合意では、テルアビブ市街地のすぐ北の海岸部にある軍のステ・ドブ空港 (Sde Dov) を、予定より2年早めて2017年までに閉鎖する。空港の跡地の再開発を行い、ホテルや商業施設に加えて、住宅1万6000戸を建設する。さらに高層アパート(6800戸)を建設する案もあると報道されている。空港閉鎖のかわりに、財務省は、2014年度の国防予算に10億NIS(約2億8900万ドル)を追加する。同追加予算で、イスラエル軍は、中止としていた演習や訓練を実施することとした。空港閉鎖の作業は2014年末から開始される。

長期的には、イスラエル軍は、同空港を含むイスラエル中部にある基地を閉鎖、移転させ、その跡地を住宅地などとして再活用する計画である。今回早期閉鎖が決定されたステ・ドブ空港は、テルアビブ市のすぐ北にある古い小規模な空港である。テルアビブから14キロ東にはベングリオン国際空港があるため、民間航空会社の同空港利用は限られていた。テルアビブの街は、北に向かって発展・拡大を続けてきた。ステ・ドブ空港は、テルアビブ市街地北の最良の場所にありながら、再開発が進められず、空港を取り残す形で新しい市街地が発展してきた。今後、空港跡地の再開発が進めば、テルアビブ市の都市機能にも影響を与えるかもしれない。

今回の合意により、国防省は2014年度予算の増額を達成した。イエーシュ・アティドのラピッド党首(財務相)は、2013年選挙の公約で中産階級の生活を向上させるとした。その主要な柱の一つは、中産階級が購入・賃貸可能な住宅の供給増加である。今回の合意で、テルアビブのすぐ北に1万6000戸を超える住宅の建設計画が稼動する。再開発地域に建設される住宅は高価で、中産階級のイスラエル人が購入することは難しいかもしれないが、これだけ大量の住宅が供給されれば、テルアビブ周辺全体での住宅事情が改善される可能性が高い。2011年夏の物価高に抗議する大規模デモの参加者たちが表明した不満の大きな対象は家賃の高騰だった。2013年の選挙でイエーシュ・アティドを支持した有権者たちは、物価高に抗議した市民が多いと報道されており、イエーシュ・アティドは、次回選挙でも、今回の合意を中産階級の生活改善という選挙公約の実現だと主張するだろう。

他方、国防省は、2014年には27.5億NISの増額を主張していた。今回その約3分の1の予

算を獲得したに過ぎない。また、財務省は、今後も国防予算の削減を進める方針に変化はないだろう。両者の衝突は、近い時期に再燃すると見られる。

(中島主席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799